

講 義 等 の 内 容 (博 士 後 期 課 程)

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
経営学特別研究 (丑山優)	現代経営学における主要な概念についてのコンセプトと問題点を解明する。
日本経営史特別研究 (加来祥男)	第2次世界大戦後の日本企業の発展とその仕組みにみられる特徴を、生産システム、雇用システム、株式会社制度を中心に、国際比較を念頭におきながら考察する。
企業経済分析特別研究 (丑山優)	企業経営・企業経済分析・経営財務分野における、新たな展開について、その制度的および法的変遷・理論的分析を綿密に整理しながら、各自の研究課題を見いだすべく指導を行う。その際常に現実の企業経営が、どのように社会変化と関わり合いながら、どのような方向性を辿りつつあるかを見つけて出す訓練を行う。
国際経営特別研究 (小川雄平)	グローバル化が進展した世界経済の現状の分析・把握と、それに伴う変容著しい国際経営環境に日々直面・対応している個別企業の国際経営戦略を理論的・実証的に考察する。
会計情報学特別研究 (春日克則)	会計学の一分野である税務会計を対象とした研究を行う。即ち、これまで税務会計は、申告書上の加算・減算を行うだけの技術、ないしは内在的に課税所得決定の論理を持たない不完全、不徹底な学問との批判を受けてきた。つまり、会計情報を適切に作成するための手段が不完全であったとするものである。このような従来の見解について、批判的に検討することにより、税務会計独自の課税所得概念(会計情報)及び所得計算構造(情報作成過程)について、これらを会計主体論及び資本概念と関連づけながら研究する。
会計監査論特別研究 (伊藤龍峰)	我が国の会計監査論の先行研究を整理しながら、企業の財務諸表に対する公認会計士・監査法人による監査制度を中心に、その問題点を解明します。絶えず、財務諸表監査制度の本質とは何かという問題意識を持ちながら研究を進めてください。
情報科学特別研究 (車炳玟)	大量の情報がネットワーク上に存在し、今後も爆発的に増大する。広大な情報の海から、求める情報を捜し出すために、膨大な情報を収集・分析し、再構築する必要がある。ネットワークの広域性、データの多様性・分散性・不均一性を考慮した広域情報検索システムについて研究する。また、ネットワーク接続された計算資源を用いて大規模分散計算を行う Grid コンピューティングの研究も行う。国内外の研究組織とも協力しつつ、計算問題分割、計算資源の分散管理、自動スケジューリング等を研究する。
情報メディア特別研究 (麻生隆史)	デジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。
情報セキュリティ特別研究 (車炳玟)	組織における情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の設計・導入・運用・見直しについて事例を中心に考察する。

授業科目名	講義等の内容
情報・信号処理特別研究 (橋爪善光)	多くの実験データには様々なノイズが乗る為、フィルタを通すなどそれぞれ適切な処理を実施することでノイズを除去し、その後何らかの知見を得る為のデータ処理を行っている。各自の研究テーマの関連研究においてどのような情報処理もしくは信号処理を利用しているかについて議論し、情報処理および信号処理についての理解を深める。
数値解析特別研究 (荒平高章)	自然科学系では偏微分方程式等で記述された数理モデルが多く存在し、その数値解析手法もかなり確立されている。近年では、社会科学系についても同様なモデル化が盛んに行われている。数値解析特別研究では、このような数理モデルについて色々な基準による分類を試み、それらの特徴や一般的な解法、解析条件などについて調査研究する。また、楕円型 Laplace 方程式について、数値解析手法の1つである有限要素法の代表的な離散化手法を修得し、具体的な境界値問題について解析システムを利用したシミュレーションを試みる。
応用数値解析特別研究 (橋爪善光)	数値解析特別研究を踏まえて、自然科学系では数多く利用されている微分方程式の解の振る舞いの求め方について調査研究する。解の周期性や安定性、カオスなどについて検討し、それぞれ実世界でどのような事例の数理モデルとなるかなどについても深く考察する。
人工知能特別研究 (荒平高章)	1950年代頃から本格的に発展してきた人工知能技術は、今日も様々な分野で応用されている。本研究は、どのような人工知能技術があるかについて、様々な分野の研究事例を通して議論し、考察をすすめる。
演習 I (麻生隆史)	情報科学の分野でも近年特に注目を浴びている、デジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にフィルタリング処理や領域分割等を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。その際必要である様々なプログラミング技術 (MATLAB 等を含む) もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。
演習 I (丑山優)	特別研究において指導した内容から、各自のテーマを具体的に設定し、そのための文献指導、文献整理、資料分析方法の訓練を行う。
演習 I (小川雄平)	各自の研究テーマの具体化・明確化を図り、修士論文を再検討してリライトし、学会誌・学術誌への掲載に堪える論文に仕上げることを目標とする。そのための文献・資料の収集・解析等研究の進め方を指導する。

授業科目名	講義等の内容
演習Ⅰ (車柄玘)	インターネット技術や計算能力の進化に伴い、高機能、高性能の知的情報処理に関する研究にますます関心が高まっている。演習Ⅰでは、人間の視聴覚情報処理に関する最新の研究動向について視野を広げるために、画像、映像、音声などを中心とするメディア情報の知的処理に関する基礎理論や先端技術等について知識を広め、研究に必要な基礎知識を習得する。
演習Ⅰ (津守常弘)	演習Ⅰは、博士論文作成に必要な会計理論に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、「古典的アプローチ」と対比しながら、「意思決定・有用性アプローチ」の特徴を整理し、「財務会計概念フレームワーク」の主要な論点、とりわけ「公正価値会計情報」に関する理論的研究を深める。演習は、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの購読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。
演習Ⅰ (橋爪善光)	ヒトは無意識のうちに様々な運動学習を行っており、その内容を意識したり言語化したりすることは難しい。様々な運動に熟練したヒトの運動のばらつきの様子を観察することで、これまで気づけなかった、脳が身体制御において重視している運動のコツを探り出せる可能性がある。演習Ⅰでは論文作成に必要なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。
演習Ⅰ (荒平高章)	工学的手法や情報学的手法は、様々な分野で使用され、新たな技術が次々と創出している。そこで、これらの手法を用いて生体医工学・生体情報学に関連する諸問題にアプローチする研究を実施する。具体的には、組織工学に基づく材料設計、in vitro 実験、生体工学に基づく数値解析などである。
演習Ⅱ (麻生隆史)	高度なデジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にニューラルネットワーク、ファジィ理論、カオス理論等のソフトコンピューティング技術を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。FPGA 等を用いたハードウェア技術もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアをさらに討論し、高度な研究の進め方を指導する。
演習Ⅱ (丑山優)	前半を、演習Ⅰで行ったことを引き続き行いながら、後半では各自の研究テーマに沿った構成を暫定的に確定することと、各構成要素にしたがって論理化するための要旨の作成の指導・訓練を行う。
演習Ⅱ (小川雄平)	演習Ⅰに引き続いて研究の進め方を指導し、研究成果を関係学会で報告させる。学会報告の内容を基にした学術論文をもう一編完成させることに目標を置いて指導する。
演習Ⅱ (車柄玘)	演習Ⅰで習得した知識をベースに博士後期課程で行う研究のテーマを決め、その関連資料の収集及び輪読、追実験などを中心に研究を進めるとともにその研究成果を随時論文にまとめ、発表する。また、研究課程で出てきた諸問題点の検討および改良を行う。

授業科目名	講義等の内容
<p>演習Ⅱ (津守常弘)</p>	<p>演習Ⅱは、博士論文作成に必要な会計制度に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、日、米、英、独など主要諸国における会計規制方式、コーポレート・ガバナンスの在り方の相違と国際的な趨勢について整理し、主に「マクロ会計政策」に関する理論的研究を深める。演習Ⅱは、演習Ⅰの場合と同様に、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの講読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。</p>
<p>演習Ⅱ (橋爪善光)</p>	<p>演習Ⅰを受けて、関連した学術論文を収集しつつ、運動計測実験の被験者数を増やし研究を進めるとともに、その研究成果を随時論文にまとめ発表する。</p>
<p>演習Ⅱ (荒平高章)</p>	<p>演習Ⅰを受け、自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で、引き続き研究を継続し、実験データを整理し、考察を進める。得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う。</p>
<p>演習Ⅲ (麻生隆史)</p>	<p>デジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを再検討し、より高度な研究の進め方・まとめ方を指導する。具体的には、研究の新規性・学術的なレベル・社会への貢献等を検証する。</p>
<p>演習Ⅲ (丑山優)</p>	<p>各自の研究テーマに沿って、学位論文のための文章化を進めるが、各構成要素ごとに報告を演習内で行い、かつ外部での報告も試みる。なお学位論文として完成することが、それぞれの研究分野においてオリジナリティーをもって貢献することを期待する。</p>
<p>演習Ⅲ (小川雄平)</p>	<p>演習Ⅰ及びⅡで作成した2編の学術論文を核に学位論文のスケルトンを検討・確立し、関係学会での報告を経て、学位論文にまとめ上げるように指導する。</p>
<p>演習Ⅲ (車炳圀)</p>	<p>演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、研究成果を学会発表及びジャーナル論文として投稿する。また、研究課程で出てきた諸問題の改良を進めるとともに知的メディア情報処理に関する知見をまとめ、より高度な知的処理手法の開発を目指す。</p>

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
<p style="text-align: center;">演習Ⅲ (津守常弘)</p>	<p>演習Ⅲは、受講者が選択する会計情報関連の特定テーマに関する博士論文の作成を具体的に指導することを目的とする。すなわち、この演習では、演習Ⅰにおける会計理論研究、演習Ⅱにおける会計制度・「マクロ会計政策」の研究を土台に据えながら、特定テーマに関する具体的な研究を行う。その場合、とくに会計実務の実態の把握、「マクロ会計政策」と「ミクロ会計政策」との関係性を重要な研究課題として課し、また、実証研究的な手法を重視する。演習は、各受講者が選択した特定の研究テーマに関する研究報告とそれをめぐるディスカッションを中心にして進める。</p>
<p style="text-align: center;">演習Ⅲ (橋爪善光)</p>	<p>演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、その研究成果を随時論文にまとめ発表する。学位論文としてこれまでに投稿してきた複数の論文をきちんと1つの筋の通ったストーリーを作ってまとめ上げる。</p>
<p style="text-align: center;">演習Ⅲ (荒平高章)</p>	<p>演習Ⅱを受け、博士論文執筆のために自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で、必要な実験データを取得・整理し、考察を進める。得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う。</p>